

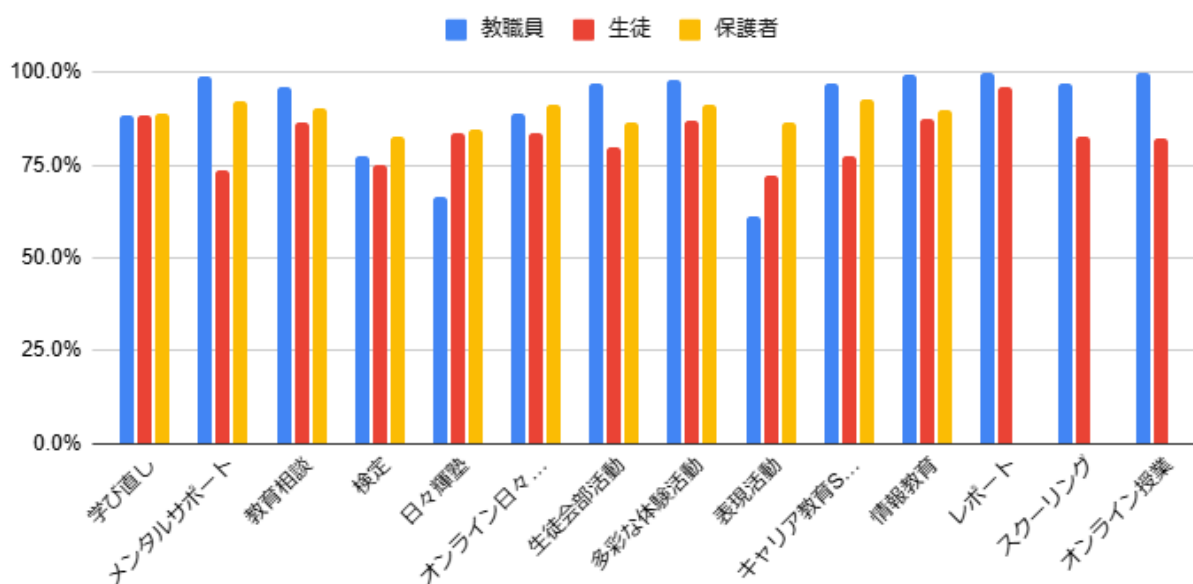
令和6年度 学校評価について

今年度回収率

教職員 (n=75)、生徒 (n=760)、保護者 (n=505)

肯定的な意見の割合

R6年度	学び直し	メンタルサポート	教育相談	検定	日々輝塾	オンライン日々輝塾	生徒会部活動	多彩な体験活動	表現活動	キャリア教育 Sanchi	ICT教育	レポート	スクーリング	オンライン授業
教職員	88.3%	99.0%	95.9%	77.3%	66.3%	88.9%	96.9%	97.8%	61.0%	96.9%	99.1%	100%	96.9%	100%
生徒	88.4%	73.6%	86.6%	74.8%	83.4%	83.7%	79.9%	86.9%	71.9%	77.6%	87.4%	96.2%	82.5%	81.9%
保護者	88.9%	92.1%	90.5%	82.8%	84.4%	91.3%	86.5%	91.1%	86.5%	92.5%	89.9%			



学校評価（自己評価 4 段階で評価 A:良好、B:おおむね良好、C やや不十分、D: 不十分）

評価項目		具体的な取り組み	達成状況	評価	次年度への改善点
楽しく安心できる学校生活	学び直し	・基礎力診断テストやレポート等で生徒一人ひとりの学力を把握し、1年生の国数英ではすららを活用する ・2,3年生も適宜レポートプリント等で振り返る。 ・レポートは生徒一人一人の学習の状況に応じた解説や自学自習を進めていく上でのアドバイス等を記載し、定期試験や基礎力診断テストで学習の定着を確認する。	基礎力診断テストより全体的に学力は改善されている。また、「すらら」の活用についても工夫を凝らして取り組み、目標達成率の改善に努めることができた	A	来年度も継続してさらに取り組み、年間での学び直しの見通しを示しながら、目標達成率の向上に務める。またレポートも活用し、学び直しを通してが学力の向上を図る
	メンタルサポート	・教員とカウンセラーが連携するとともに、カウンセラー便りなどで情報を発信 ・教員とカウンセラーが連携する会議を設ける ・教育相談を基に、指導計画などを立て取り組むとともに定期的に振り返る。	教員との連携や情報発信を行うことができた。また ICT を活用しながら相談を受けるなどの体制もできている。	B	生徒が普段から気軽に相談できるよう、声掛けから行うとともに、ICTを活用して相談を受ける体制を整えていく
	教育相談・面談	・各校舎で担任やカウンセラーと二者面談を実施	年間の計画の中で定期的に二者面談を実施することができ、生徒の相談などを把握しやすくなった。	A	Face to Faceを大事にしながら、計画的に面談を行う。

評価項目		具体的な取り組み	達成状況	評価	次年度への改善点
やりたいことに集中できる	検定	・漢検や英検、情報系の検定について、生徒の能力・学力とのマッチングを図り、各種検定試験へ適切に挑戦させる。 ・授業や日々輝塾の中で、検定に関する指導を行う。 ・全体または個人別に検定結果を振り返らせる。特に不合格者については丁寧に行う。	継続的に課題となっている項目ではあるが、授業や日々輝塾を通して指導を行った。上位級の伸びはないものの、全体での取得者数の向上や数検など新たに検定に取り組むことができた。	B	上位級を狙える生徒に対して、挑戦を促すとともに、新たに取り組始めた検定に対しても、日々輝塾などを通して指導を行い、挑戦意欲を高めていく。
	日々輝塾	・日々輝塾でひとり一人の目標を定め、定期的に開催し取り組む。 ・日々輝塾を定期的に開催し、生徒へも参加を促す。 ・定期的に目標に向かってどの程度達成されているのか振り返りながら取り組ませる。	生徒や保護者ともに高い満足度ではあるが、教職員側からは改善すべき点があると考えられる。 検定指導とも関連しながら、目標を達成させる指導が必要であると考えられる。	A	計画的、継続的に指導を行うとともに、少しでも興味がある生徒を日々輝塾へ誘導し、目標を達成させるよう努める
	オンライン	・希望した生徒に対しオンライン日々輝塾を定期	年間をとおして定期的に開催すること	A	年間で実施回数などを見直し、無理のない範

	日々輝塾	的に開催し、参加を促す。	ができた。 ただ、参加者は回数が進むごとに減少しがちであるので、継続して取り組む工夫が必要である。		困で続けられる工夫を行う必要がある。
	生徒会部活	・生徒会や部活動を組織し、年間の目標を定め、計画に基づいて実施。	各校舎で年間をととして取り組むことができ、教職員・保護者の評価が高いが生徒の肯定的な意見の割合は若干低い。	B	年間を通して生徒のモチベーションが保てるよう、継続的な実施や評価を行っていく。

評価項目		具体的な取り組み	達成状況	評価	次年度への改善点
自分だけの未来が見つかる	多彩な体験活動	・体験学習後に振り返りの時間を設定し、目的や内容を振り返らせる。 ・地域のボランティア事業等に参加する。	生徒、保護者、教職員とも高い肯定的な意見の割合を示している。生徒からも取り組みたいことなど意見がでてきている。	A	体験学習など内容を見直して、新たなものを取り入れるとともに、必要のないものは止めていくなど見直しを行う。
	表現活動	・学校内の行事や地域の行事で積極的に発表する。またコンクールへの参加や、出版物の発行などを行う。 ・表現活動の場に向けて、計画的に取り組む。 ・表現活動後に、評価する機会を設ける。	文化祭や外部の展示会、また地域での活動への参加など、積極的に取り組むことができた。コロナ禍で一度減少したことから、まだ肯定的な意見の割合は若干低い	B	対外的な活動への参加とともに、あらたな活動の場を模索していく。
	体験型キャリア教育 Sanchi	・年間をととして、計画的に探究活動に取り組み、探究活動についてはしっかりと取りまとめを行わせる。 ・高大連携、高専連携、よのなか学習プログラム、インターンシップ体験を実施。 ・二者面談や三者面談の実施。 進路コーナーを設置しての情報提供。 ・自らのキャリアについて考えさせ、今取り組むべきことを理解させる。	教職員や保護者の肯定的な意見は高いが、生徒の校手的な意見の割合は若干下がる。生徒の声からは、探究活動で何をしたら良いかわからない等、戸惑うような意見もあった。	B	探究の取り組みで戸惑う声もあったことから、年間を通して、丁寧な指導を行っていく必要がある。

評価項目		具体的な取り組み	達成状況	評価	次年度への改善点
ICT教育	情報教育	・授業や日々輝塾を通して指導を行う。 ・定期的に活動について振り返り、評価する。	生徒、保護者、教職員から高い評価を得ている。生成AIについての指導などに取り組むことができた。	A	これまでの指導に加え、生成AIなど新たな分野での指導も行っていく。

評価項目		具体的な取り組み	達成状況	評価	次年度への改善点
その他	レポート	・生徒が取り組みやすいよう、通常の対面指導でも丁寧に指導を行う。	それぞれのペースでレポートをこなすことができ、大部分の生徒がレポートを完了することができた。	A	デジタル化の方向性を探っていく。
	スクーリング	・スクーリングウィークを設定し、生徒にも実施日がわかりやすいの様に指導を行った。	計画通りに実施することができた。生徒からの否定的な声はなかった。	A	より生徒が取り組みやすいように、実施日を設定していく。
	オンライン授業	・年間で実施日を決め行う。	画面の見やすさや、聴き取りやすさなどに配慮し、計画通りに行うことができた。	A	メディア活用の一環として、オンデマンドも含めて実施していく。

委員会構成	<委員> 阿部 さおり 令和6年度PTA会長 日高 美喜子 令和6年度PTA副会長 三木 由紀枝 令和6年度PTA副会長 篠原 美枝子 令和6年度PTA副会長 <学校参加者> 酒井 道尚 日々輝学園高等学校 神奈川校 校長 笈川 明恵 日々輝学園高等学校 神奈川校 職員
開催日程 主な議題	第1回 令和7年2月15日 ・自己評価報告について ・学校関係者評価について 第2回 令和7年3月8日 ・学校関係者評価報告書(案)について ※評価意見について協議、次年度の改善項目について確認
改善意見 ・ 改善方策	評価項目:メンタルサポートについて 今年度から「面談ウィーク」が設けられましたが、なかなか自分発信ができない生徒も先生に伝えられる何かがあったのではないのでしょうか。相談できる環境は整っているが、十分に機能が発揮されなかった部分があったのが少し残念でした。 →「面談ウィーク」の実施方法を修正すると同時に、今まで以上に職員から生徒へ「声かけ相談」を実施する。 評価項目:オンライン授業について オンライン授業でも、授業に工夫がされているのがよかったと思います。 コロナ禍における対応としてオンライン授業を実施していたが、5類への移行等により、オンライン授業日を減じて、通常授業に替えてもよいだろうとの結論に至った。 評価項目:プロジェクト学習発表会 各クラス・個人の代表の発表となっていたが、当日の発表者数を増やしてもよいのではないのでしょうか。 →すでにクラス内予選を実施しているところもあるが、次年度以降、その流れをより意識していきたい。 評価項目:スクーリングウィーク 今年度から「スクーリングウィーク」が設けられましたが、連続週5日間となっているのが負担になる生徒もいるので、今後の実施方法について検討をしていただけるとより充実するのではないのでしょうか。 →次年度については、週2～3日程度のスクーリングを分散実施する方向が適切ではないかとの結論に至った。 評価項目:その他 各家庭への配布物について 保護者宛配布プリントのHP等による配信等について、整備を希望しています。 →学校としてのDX化を進め、保護者宛文書等のデジタル配信を実現する。